

大規模災害時の
地域コミュニティの
継続に向けて



香川大学

危機管理シンポジウム

防災・日本再生シンポジウム

日時 2012年1月10日(火) 11:30~17:00

場所 サンポートホール高松5F 第2小ホール

■ 第1部 地域報告会・活動報告(11:30~12:30)

危機管理研究センター平成23年度事業報告

白木 渡 センター長(工学部教授)

「二番丁地区の地域継続に向けた活動紹介」

白木 渡(工学部教授) 長谷川修一(工学部教授)

井面 仁志(工学部教授) 野々村敦子(工学部准教授)

「自治会避難訓練企画・実施の体験談」

竹内 智氏(南番町自治会)

川口 秀明氏(扇町愛扇自治会)

■ 第2部 基調講演(14:00~15:00)

「東日本大震災の教訓—災害時の地域継続を考える—」

室崎 益輝氏(関西学院大学・教授)

■ 第3部 パネルディスカッション(15:20~16:50)

「地域を守るために私達にできること」

コーディネーター 白木 渡(センター長)

田村 圭子氏(新潟大学危機管理室・教授)

岩崎 正朔氏(かがわ自主ぼう連絡協議会会長)

石田 雄士氏(二番丁コミュニティ協議会会長)

河西 洋一氏(高松市総務部危機管理課長)

二神 透氏(愛媛大学防災情報研究センター・准教授)

主催/香川大学危機管理研究センター、一般社団法人国立大学協会

共催/GIS学会四国支部、社土木学会四国支部香川地区

後援/国土交通省四国地方整備局、香川県、高松市、香川県防災士会、かがわ自主ぼう連絡協議会、

NPO法人災害に強いまちづくり研究会

土木学会継続教育(CPD)プログラム認定

香川大学 危機管理シンポジウム

大規模災害時の地域コミュニティの継続に向けて

—— 防災・日本再生シンポジウム ——

第1部 地域報告会・活動報告(11:30~12:30)

危機管理研究センター平成23年度事業報告
 白木 渡 センター長(工学部教授)
 「二番丁地区の地域継続に向けた活動紹介」
 白木 渡(工学部教授) 長谷川修一(工学部教授)
 井面 仁志(工学部教授) 野々村敦子(工学部准教授)
 「自治会避難訓練企画・実施の体験談」
 竹内 智 氏(南番町自治会)
 川口 秀明 氏(扇町愛扇自治会)

開会挨拶

■学長挨拶(13:30~13:35)

長尾 省吾 学長

■来賓挨拶(13:35~13:50)

石橋 良啓 氏(国土交通省四国地方整備局企画部長)
 丹 睦宏 氏(香川県防災局長)
 石垣 佳邦 氏(高松市総務部長)

第2部 基調講演(14:00~15:00)

「東日本大震災の教訓—災害時の地域継続を考える—」
 室崎 益輝 氏(関西学院大学・教授)

第3部 パネルディスカッション(15:20~16:50)

「地域を守るために私達にできること」

コーディネーター 白木 渡(センター長)
パネリスト 田村 圭子 氏(新潟大学危機管理室・教授)
 岩崎 正朔 氏(かがわ自主ぼう連絡協議会会長)
 石田 雄士 氏(二番丁コミュニティ協議会会長)
 河西 洋一 氏(高松市総務部危機管理課長)
 二神 透 氏(愛媛大学防災情報研究センター・准教授)

閉会挨拶(16:50~16:55)

大平 文和 理事(産学官連携推進機構長)



- [交通アクセス]
- JR高松駅……………サンポート高松内
 - ことでん高松築港駅 ……徒歩2分
 - 高松港 ……………サンポート高松内
 - 高松中央I.C. ……………車で約20分
 - 高松西I.C. ……………車で約20分
 - 高松空港 ……………ことでん高松空港連絡リムジンバス
JR高松駅行き約40分
- [駐車場] ●サンポート高松地下駐車場(有料)

シンポジウム参加申込書

お申し込みの際は、下記の申込書に必要事項をご記入のうえ、FaxまたはE-mailにてご連絡くださいますようお願いいたします。
 ご記入いただく個人情報につきましては、今回のセミナーでのみ使用し、これ以外の目的で利用することはありません。

| ご所属 | ご芳名 | 電話番号 | E-mail |
|-----|-----|------|--------|
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |
| 4 | | | |
| 5 | | | |
| 6 | | | |
| 7 | | | |

〆切 1月6日(金) ※当日参加も可能です。

お問い合わせ 香川大学危機管理研究センター
 〒761-0396 香川県高松市林町2217-20
 TEL 087-864-2544
 FAX 087-864-2549
 E-mail kikikanri@jim.aokagawa-u.ac.jp



香川大学キャラクター

細い線で「K」をモチーフにした動物(人)を描いています。「夢・個性」の発見に向けて、人一倍の嗅覚(アンテナ)を磨き生かし、知識、探究、思考、発想、実行を重ねながら、筋肉を身につけて魅力的な人となり社会に巣立つことをイメージしております。